

性的少数者(セクシュアルマイノリティ)
に関する意識調査 結果報告書

長野市

目 次

| | |
|---------|----|
| ◎ 調査の概要 | 1 |
| 1 調査の目的 | |
| 2 調査の対象 | |
| 3 調査機関 | |
| 4 回収状況 | |
| ◎ 調査の結果 | 2 |
| ◎ 調査票 | 14 |

◎ 調査の概要

1 調査の目的

長野市における性的少数者（セクシュアルマイノリティ）に関する市民の意識と実態を調査し、今後の施策への資料とするもの

2 調査の対象

平成 30 年 9 月 18 日現在で長野市に在住する 20 歳以上 75 歳未満の男女各 1,000 人（計:2,000 人）

長野市住民基本台帳より、単純無作為抽出（平成 30 年度「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」と同時実施）

3 調査期間

平成 30 年 9 月 28 日(金)～10 月 15 日(月)

4 回収状況

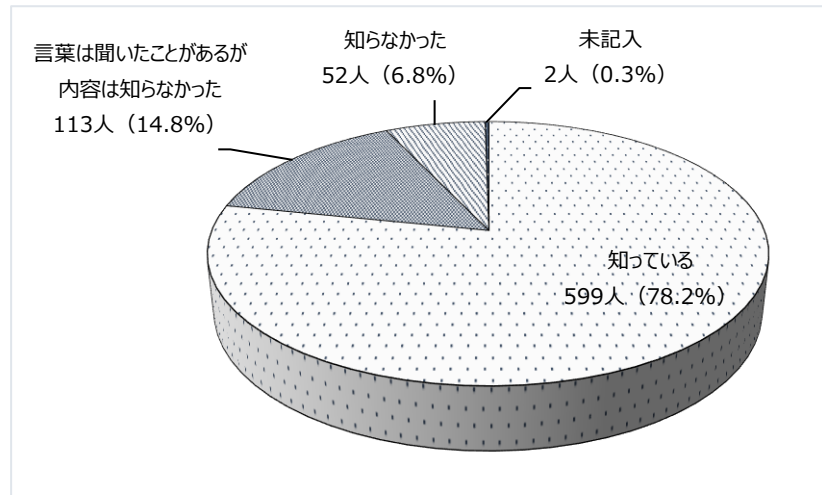
回収数：766 票（回収率：38.3%）

<注>

・報告書のパーセント数字は小数点第 2 位を四捨五入。合計が 100 にならない場合がある。

◎ 調査の結果

問1 あなたは「性的少数者」または「LGBT」という言葉（どちらか一方でも）を知っているか、または聞いたことがありますか。

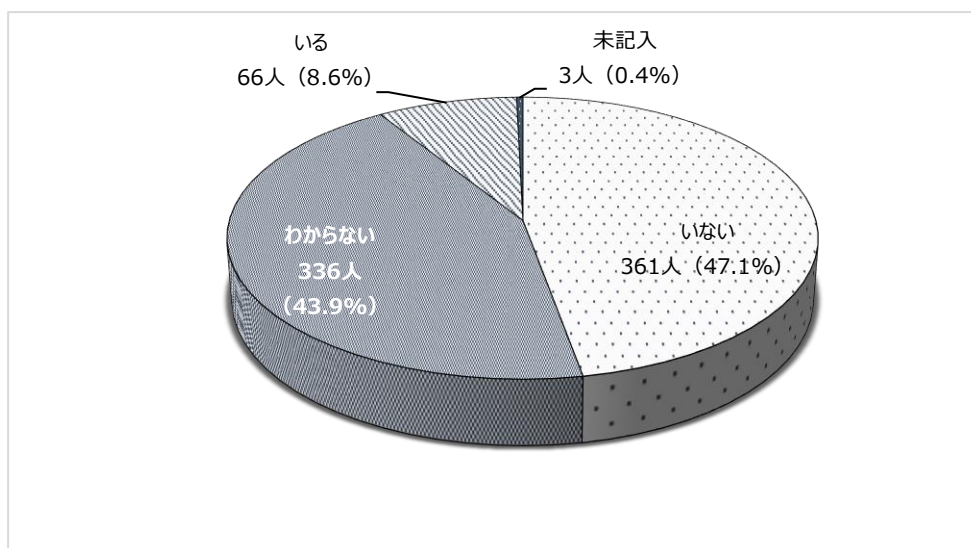


| 選択肢 | 回答数 | 回答割合 |
|-----------------------|-----|-------|
| 知っている | 599 | 78.2% |
| 言葉は聞いたことがあるが内容は知らなかった | 113 | 14.8% |
| 知らなかった | 52 | 6.8% |
| 未記入 | 2 | 0.3% |

【調査結果概要】

「性的少数者」または「LGBT」という言葉を知っているか、と尋ねたところ「知っている」という内容が約8割となっている。

問2 あなたの周りに、性的少数者の方はいますか。



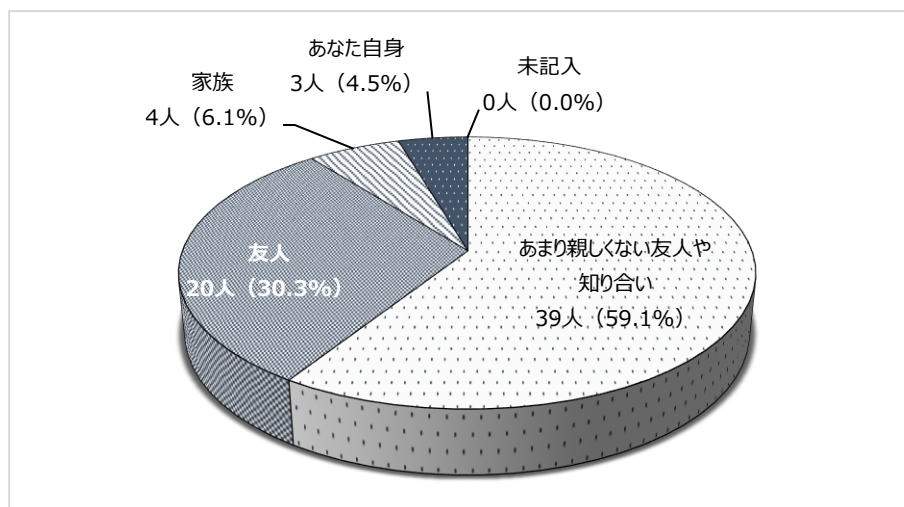
| 選択肢 | 回答数 | 回答割合 |
|-------|-----|-------|
| いない | 361 | 47.1% |
| わからない | 336 | 43.9% |
| いる | 66 | 8.6% |
| 未記入 | 3 | 0.4% |

【調査結果概要】

あなたの周りに性的少数者の方がいるかと尋ねたところ、『8.6%』の方が「いる」と回答している。

これは、平成27年に民間で行った全国的調査結果『7.6%』と類似した状況となっている。

問3 問2で「いる」と答えた方にお聞きします。それは、どなたですか。



| 選択肢 | 回答数 | 回答割合 |
|-----------------|-----|-------|
| あまり親しくない友人や知り合い | 39 | 59.1% |
| 友人 | 20 | 30.3% |
| 家族 | 4 | 6.1% |
| あなた自身 | 3 | 4.5% |
| 未記入 | 0 | 0.0% |

【調査結果概要】

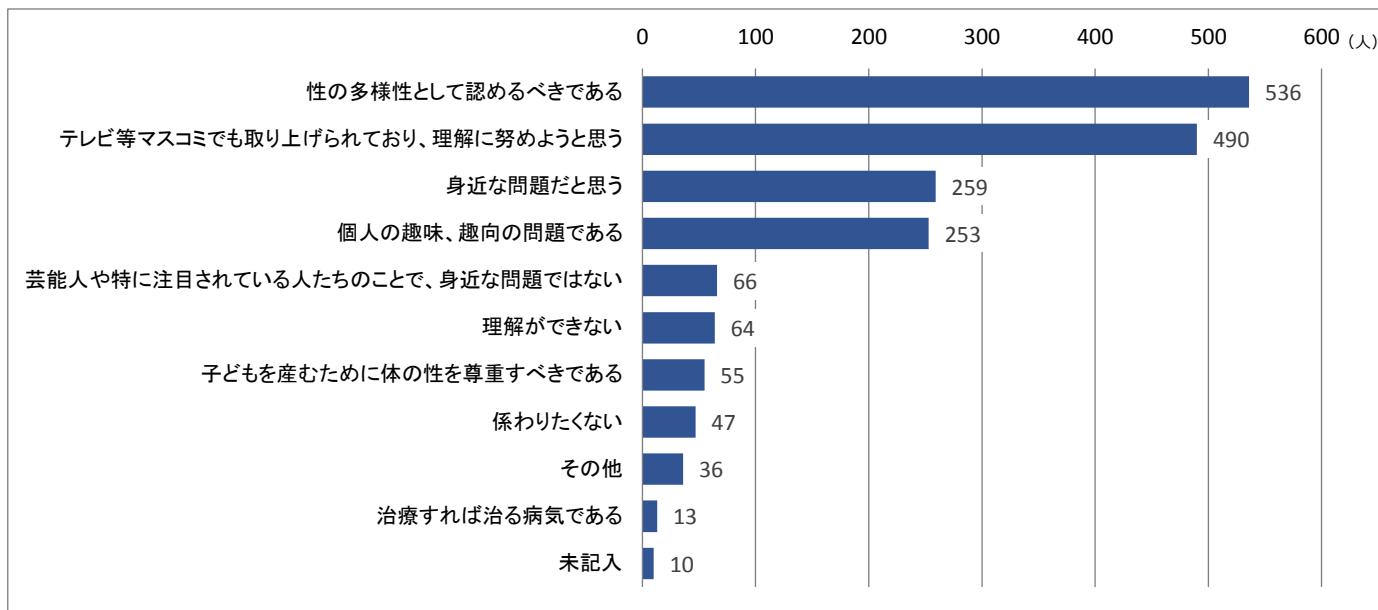
「身近に性的少数者がいる」と回答した方にそれは誰かと尋ねたところ、「知人」「友人」が約9割となっている。

問4 問3で「あなた自身」と答えた方にお聞きします。これまでに、カミングアウトや相談をしたことがありますか。

本設問については、回答該当者数が少数であるため、参考数値とする。

「該当者 3人」うち、「ある」と回答は「2人」
「2人」とも、その相手は「家族」

問5 性的少数者についてどのような考えや、イメージをお持ちですか。3つまでお選びください。



＜その他回答＞

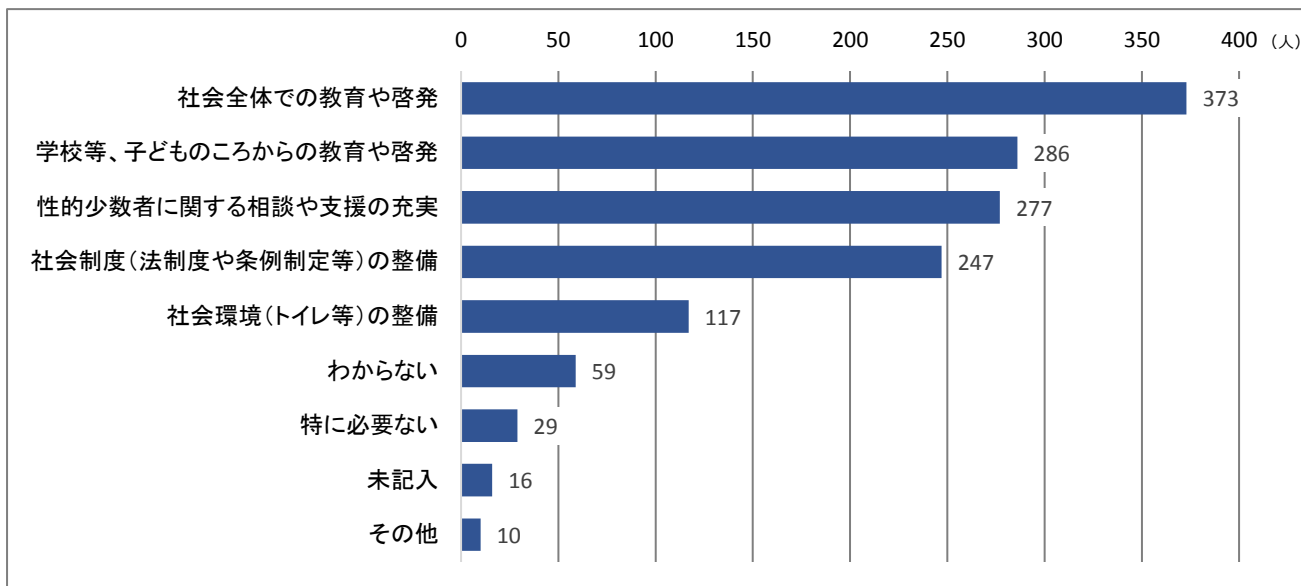
- ・子どもを産むためという縛りで見ない方が良いと思う。差別や偏見を持たずに見守ってあげてほしい。
- ・社会全体のこととして捉える必要がある。
- ・自由です。理解云々の問題ではない。
- ・知人にもいるので、どんなイメージなど、そういう考えがない。
- ・何も思わない（LGBTであるから何かということは思っていない）。
- ・身近に相談されたことがないので、理解しようと思うが実際にはわからない。
- ・頭では理解できるが、身近なことになった時、受け入れることが難しい気がする。
- ・理解しているつもりであるが、実際に身内にいると受け入れるまでに時間がかかるかもしれない。
- ・理解に努めたとして、実際に関わりを持つ場面ではどうするかは自分でもよくわからない。例えば子どものパートナーとして現れた場合とか…
- ・偏見を持たれがち。悩んでいるというイメージ
- ・騒ぎ過ぎだと思う。
- ・身近にいないのであまり考えたことがない。差別、差別と大げさに騒ぎすぎている。
- ・理解できないという意見をマスコミが攻撃しすぎている。
- ・必要以上に騒ぎ立てない方がよい場合もある。
- ・いたずらにマスコミに取り上げられるべきではない。その部分での理解は誤解も生じかねない。東京のレズビアン同士の結婚、その後別れる＝イメージが悪い。
- ・天の摂理に従うべき。
- ・自分の性のこと以外に身近でない。
- ・関心がなかった。
- ・（選択肢）「子どもを産むために体の性を尊重すべきである」「治療すれば治る病気である」「係わりたくない」のような考え方は非常に良くない。新潮45のような極論がま

かり通るのは恐ろしい。

【調査結果概要】

性的少数者に関する考えやイメージについて尋ねたところ、「性の多様性として認めるべき」「理解に努めようと思う」が上位を占めているのに対し、「個人の趣味・趣向の問題」「身近な問題ではない」「理解できない」「係わりたくない」という否定的な回答も一定数あり、また「治療すれば治る病気」と考えている方もいる。

問6 性的少数者の人権を守るためにどのようなことが必要だと思いますか。2つまでお選びください。



<その他回答(抜粋)>

- ・理解する意識が大切
- ・当該者の要望、意見、何が必要か等聴くことから理解を深められるので、聞くことから始める。
- ・外国人と話しているとよく分かるのだが、日本人には基本的に「人権意識」がほとんどないため、法的・教育啓発をしても社会の認識は変わらないと思う。男女平等と言って何十年も経つのに、未だに差別が後を絶たず、最近では政権批判をちょっとでもすると「反日」というレッテルを貼って攻撃をすることにもよく表れていると思う。国会議員が公に差別しても政権幹部、マスコミの一部までもが支持するという現状を見る限り、LGBTに対する差別、偏見はなくならないと思う。違っていることが当たり前のこととして認め合う社会にならない限り、日本に平等の思想は出てこないでしょう。
- ・その人に合わせる。
- ・個人の趣味、趣向であるため、他人が口出しすることではない。
- ・他の人の人権問題と比べ、ことさらに強調した対応は不要
- ・成り行きに任せればよい。マスコミが異常に騒ぎ過ぎ。
- ・否定する人の問題
- ・性的少数者の人権を守るためには、公が民間の邪魔をしないことが重要になる。相談や支援の充実も民間で行うことが重要
- ・教育はどんなことをするのでしょうか。

【調査結果概要】

性的少数者の人権を守るために必要なことを尋ねたところ、「教育や啓発」が最上位となっており、そのうち「子どものころから必要」という意見も多くある。また「相談や支援体制の充実」、「社会制度や環境の整備」も必要としている。

問7 性的少数者について、ご意見やお考えがありましたらご記入ください。

(注：意見集約時に分野分けを実施)

<教育・啓発>

- ・特に「T」については学校教育の中で必要かと思う。L・G・Bは学校教育では難しい。またL・G・BをTと一緒にして「性は少数者」として片づけることには違和感があります。
- ・外国に比べてまだまだ日本国内においては認知度が低いと思うし、関心もなく理解されにくいだろうと思う。もっとみんなが生きやすく、日本においても教育すべきだと思う。閉鎖的である。
- ・デリケートな問題なので、性教育の中にしっかりと位置付け、小中高と一貫して学べるようにしてほしい。
- ・自分の周りに性的少数者はいませんが、社会全体のことと捉えて考える必要があると思います。諸学校での教育は特に重要ではないでしょうか。
- ・正しい知識と理解が必要。当事者と一緒に楽しめる場、当たり前前に性的少数者が隣にいる環境、子どものころから自分と違う他者がいることを当たり前と思える教育・環境、性的少数者が堂々と生きられる社会の実現が必要。皆が社会で役割、居場所を持つことが地域の活性化、アイディアの多様化につながる。
- ・興味本位で見てはいけない、専門家等がもっと必要。中学生頃からの教育・知識が必要なので、性教育の時に教育する。
- ・男女平等についても理解すらしていない人（古い人）がいる中で、性的少数者を理解するというのは大変なことだ。急速に進まなくても続けていける活動を行うべきだと思う。内容については小さな頃からの教育が良いと思う。頭の固い（古い人間）には理解は無理だと感じる。
- ・時代が進むと人間の考えも変わり、方向性が変わるため、しっかりとした形（ルール）を作る必要から、教育を作り上げておく必要がある。
- ・偏見を持たないためにも、順応性のある子どものうちから学校の教育で取り入れてもらいたい。
- ・理解するには時間がかかるため、子どもの頃の教育が大事なのではないのでしょうか。まずは知ることが大切
- ・日本は「ふつう」であることにこだわり、少数に対してとても否定的で、拒絶的だと感じます。今すぐは無理でも、これから子どもを作る子どもたちには理解し、受け入れる力をつけてほしいと思います。
- ・人それぞれ多様な生き方があります。性的少数者の人格のみならず、他者を尊重することの大切さを資質として身につけることが必要なのだと思います。子どもからの啓発や教育をすることで人の心をはぐくむ。
- ・病気であるとか、個人の趣向であると思っている人が、かなりいるように思う。子どもの頃から多様性が当たり前となるよう願う。
- ・子どもの頃から色々な性の形があり、個性であり、特別なことではないという教育をすべきだと思う。
- ・社会は性の多様性を理解して、教育、啓発に取り組み、それにより苦しむ人たちが少なくなるようになればよい。
- ・子どもや若者は柔らかな考え方ができると思いますが、高齢の方たちは嫌悪するのではと思います。本当に理解してもらいたいのであれば、シニア層向けにLGBTの方を

傷つけてはいけないのだと、分かりやすいエピソードを載せた冊子を作成（もしくは新聞に掲載）し、理解を深める必要があると思います。

・子どもは思考が柔軟だから受け入れやすいが、大人の意識改革がまずは必要だと思う。大人の意識に子どもは影響を受けるから。

・色んな人がいること、いろんな人がいていいことを小さいころから学校で教えることも必要。

・男女共同参画にも言えることですが、制度も大事ですが、先ず人々の意識を変えるところから始めないと、いつまでたっても差別されてしまうと思います。

・性的少数者について知ったのは、海外ドラマや映画がきっかけでした。又授業で学んだのは、大学に入ってからだったので、日本ではまだ教育が進んでいないと思います。

<社会・法律・環境の整備>

・性的少数者に対して社会は差別や偏見をなくす社会が必要です。

・どんなマイノリティーをもっていようが、その人がその人らしく幸せに生きていけるように、社会全体が理解を深めていく必要があると思います。

・一般的にはまだまだ偏見、興味本位の理解が根強いと思います。当人の苦しみを全く知ろうとせず、偏った傲慢な言動をまき散らす議員やごく一部のマスコミに怒りを覚えます。

・差別されず安心して暮らせる社会づくり

・偏見をなくす取り組みが重要と考える。

・不都合なく生活できる社会制度を変えていく。

・個人なので社会全体で理解する。

・肯定されることより否定されないことの方が重要。他人に対する理解やいたわり、寛容さといったものを社会全体で育むことがすべての差別に対して有効

・子どもに対しては、LGBTだけでなくいろいろな考えや在り方があるという教育を、大人に対しては、ただの趣味趣向だけではないということの認知を広める努力が必要かと。そのためには「国が認めた権利である」ことを示すために法の整備が必要ではないでしょうか。

・性的少数者というネーミングが差別的、消極的な印象を受けます。純粹にそういう方と変質者を見分けられないので、そういう方々を理解し、認めたい気持ちがあるのと同時に、実生活で自然に受け入れられるか戸惑いや不安があるのも事実です。妊婦さんのような「妊娠しています」マークがLGBTの方々にも手続きで交付されるとかだと、トイレ等での理解も促せるきっかけになると思います。

・性的少数者同士の結婚を認める都市もあるが、都市数が増えていくと良い。制度的にも普通の婚姻と同じ保証が受けられることが望ましい。

・当事者の方からすれば話しづらいことだと思う。そのことでなかなか接することができず、身近なこととは感じにくい。こちらにも遠慮があっていけないと思う。法律や制度、認識を深めるためにということが今は一番大事なかなと思う。

・正式な結婚が認められないと遺産相続でパートナーが何も受け取れなくなってしまう問題がイギリスのニュースで報道されていて、日本も早く解決するべきと思った。

・性に関する事柄について、市か国に自由化を求めてほしいです（法律婚を廃止して、結婚を私署証書によるものにするなど）。大切なことは、公ではなるべく民に関与しないということです。

・性的少数者にも里親や養子縁組の制度を利用できるようになるといいと思う。最近の某雑誌の子どもの中で、本人たちも、もしかしたら子どもが欲しいと思っている方だっているかもしれない。その中でも自分たちの子は難しいけれど、という方にはいいと思う。

・個人や民間でなく公共機関がこの問題に取り組むのは大切なことだと思います。

・性的少数者が生きやすい、働きやすい社会になってほしい。知り合いの性的少数者は日本ではやっていけず、アメリカで暮らしている。進学や就職などで性的少数者が不利益を受けずに道を選べたらいいのと思う。

・性的少数者に対する相談をしたり、支援を行う機関も充実したりすることが大切だと感じる。

・国全体での啓発や個人の相談にのることが大切だと思う。

・社会環境の整備をして、男女問わず使えるもの（トイレ等）を増やせば、体の性に固執する人は少し減るかもしれない。

・公的な場所にトイレの設置が緊急で必要と考える。1日中外で自制し、自宅に帰る様子を伺ったことがあり、人間的な生活をさせてあげたい。

<戸惑い>

・性の多様性を認めるべきとは思っているが、いたら人に知られたくない。

・LGBTについてTV等で目にすることが多くなり、身近にはいないと思うが、理解しようと考えている。でももし自分の子がLGBTだということが分かったら戸惑うかもしれない。まだ本当の意味で理解できていないということなのかもしれない。

・いろいろな人がいてもいいと思う。ただ、接したことがないので、いざ接した時、どう感じるのかはわからないけど。

・TV等でLGBTの方や特集を見ても違和感は全くない。だけど身近な人がLGBTだったらどう対応したらいいか困るかも…。実際、街で男性が女性の格好をしているのを見ると好奇の目で見てしまう。

・自分の子どもがそうであるならば、受け入れるのに時間がかかると思います。

・身の回りに本当はいるのに実は言えなかつたりする人がいるのかもしれない。もし自分がLGBTだったら、同じ仲間にはしか言わないと思う。でも、もし周りで言う人がいたとしたら何ら関係は変わらないと思うし、それはきちんと認めていきたいとします。

・身近にはいないので、偏見で見えてしまいがちですが、それ以上に本人が悩んでいるかもしれないので、もっと理解をしてあげなければいけない部分もあると思います。

<実際・実態>

・個性なんだと思う。中学生の時にクラスメイトに女の子になりきっている男子がいたが、みんな普通に仲良くしていた（本人が良い人だった）。

・関係のない人がうらやましい。原因は何なのか知りたい。

・LGBTの社会的制約がどうなのか、当事者の意見はもっと取り上げるべきで、LGBTでない人がわからないところを社会として考える必要がある。

・性的少数者の皆さんとの交流の機会を大切にしたい。

・多くの機会を通じ、気づきを持つことから始めることが大切と考える。

・女子大学に行った際に、そのような傾向の子が多くいた。本人たちは堂々と生きたい反面、生きにくさを感じている気がする。芸能人よりも明らかに大変な思いをしている

と思う。

・芸能人の中には面白おかしく笑いを取るかのようにLGBTだと見せているところがある。実際には口に出せず世間の目があるからと秘密にせざるを得ないほどなのに。受け取る側は、軽く考え、変わった人たちに映ってしまう。

・それもまた普通の人間である。特別な目で見ることはない世の中にいずれなると良いと思う。私は女性ですが、ある日急に周りからあなたは男性だと言われても納得がいかない、受け入れられない。トランスジェンダーの苦しみは軽く見てはいけない。

<思いや願い>

・今は特別なことだとは思いません。

・みんな違ってみんないい。LもGもBもTも普通と思える社会になるといい。

・性的少数者に限らず、人権の意識を誰に対しても持つことが大切だと思う。そして周りに堂々と言えるような社会になると良いと思う。

・特別に思わない。普通に友人の一人として大切な人である。

・特別なことではないので、特別な対応はいらない。人権を守るべきなのは、万人に共通なこと、自然体でよい。

・いろいろな生き方、幸福の形があって良いと思う。生産性がすべてではない。

・LGBTのうち、トランスジェンダー以外は性的指向でもあり、個人の自由だと考えます。

・個性として捉えたらいいのでは。

・個人の問題であり、理解すべきだと思う。

・特に差別、偏見する必要がなく、個々人しっかりと社会生活すればよい。

・個性なので「性的少数者」という呼び方もあまり呼ばない方が良いと思います。LGBTでよいと思う。

・本人同士が良ければ良いのではないですか。

・彼らは立派な社会の構成員の一人であり、生産性がないだなんてとんでもない考え。LGBTでなくても社会に貢献していない人間が大勢いる。そういう人たちの方が非難されるべきだと思う。

・LGBTの方が抱えている苦しみや社会問題を理解できていないところがありますが、その方だけでなく、世の中の人々が皆幸せだと思える社会になるよう、自分自身考えていかなければならないと思う。

・身近にはいないが、もっとカミングアウトできる社会になればと願います。

・性的少数者が何か悪いことをしているということではないので、理解が広がったらいいなと思う。

・理解が広まればよいと思う。

・同じ人間として色々な悩みや問題はあと思う。理解ある社会、世の中になっていければよいと思う。

・社会において多様性が求められている昨今、社会の一員として生きることが認められなければならないと思う。ある国会議員が「生産性がない」などと、一部の報道でされているようだが、子どもを産まないから生産性がないということなら、それは私個人の考えでは間違っていると思う。性的少数者の方でもきちんと働き、きちんと税金を納めている人がいる。全員が犯罪をいけるわけではないし、要はその人の資質の問題である。性ではなく、道徳的な考え方、資質で平等に扱われるべきだと思う。

- ・全てを受け入れることが大切と考えています。
- ・TVやマスコミから取り上げられたことで、本人の責任ではなく、生まれもってきてしまっているので、周りが理解すべき。
- ・個人的には特に周りにそういう人がいても抵抗はないので、LGBTの人たちが過ごしやすい環境になるといいと思う。
- ・まだまだ性的少数者の方々は住みにくい社会ではあると思うので、社会全体でお互いを尊重し合える教育は必要だと思う。ただ、少数者が主張するのと同様、ストレートの人たちの人権なども大切にしていかなければならないと思う。ストレート、性的少数関係なく、皆が一人の人間として尊重されるべきだと思う。
- ・自分の身近にもそのような人がいる可能性を考え、理解を深めていく必要性はある。男・女としてではなく「人」として尊重すべき。
- ・性的少数者について限定して考えるのではなく、広く「人権」ということで社会全体が考えていくべき。
- ・LGBTはNHK Eテレの「ハートネットTV」でよくとりあげられています。私はお気持ち、立場を理解できますし、差別の気持ちは持っていないと思います。色々な人がいて、良い社会になってほしいです（障害者も含めて）。
- ・趣味、趣向なのか生まれつきなのか見極めが分かりにくいので、そういう人もいると受け止めていきたい。関わるどうのこうのは、個人の問題

<その他の意見・感想>

- ・正直初めはドラマの世界と思っていましたが、中～高校の時に親友に泣きながら「生きづらい」とカミングアウトされて、身近さを知りました。しかし、聞いても自然に受け入れられたのは、ドラマのおかげでした。リアルな事情を発信することで受け入れやすくなると思う。
- ・周囲にはいませんが、出会っても差別や偏見を持たない自分でありたい。
- ・何事にもおおらかな社会の方が住みやすい。苦しんでいる人の存在に気づきませんでした。これからは気を付けようと思います。
- ・息子がキャンプの時、女子は個室シャワーで男子は大浴場と聞き、今の風潮に合わないなあと思いました。体育での組体操を上半身裸で行うなど、見直すべきと感じます。
- ・性の多様性として認めるべきとは思いますが、そのためには科学的（医学的）な知識が不足
- ・私は60代後半だが、昔はLGBTが存在していなかったと思うが、時代の変わり様で、認めておかしなこと（自死）を考えないで立派に成長していつてもらいたい。
- ・LGBTについては、性の多様性として認めるべきだと考えていますが、その一方で、LGBTと判断する基準が難しいので、共同のトイレや風呂、着替え場等、使用する人たちがみんな安心して利用するのは大きな問題になるのかなと思いました。LGBTと偽って女子トイレや男子トイレを使う人も出てくるのではないかという懸念もあります。
- ・LGBTの人たちをどうしたら減らしていけるか、社会全体で考えること、統計を取り分析をし、未来の日本の国を明るくしていく必要がある。
- ・個人的には今少子化問題があるので、できることなら女性にしか無理なことなので、その辺は良く考えて欲しいとは思う。どうにかしないと今の子ども達がかわいそう。未来が見えなくなる。ある議員の発言は今の世の中には一理あると思う。

・性的少数者が増え続けたら、実際問題人口は減少していきます。世の中のライフスタイル、環境がより複雑になり、普通？の人が精神的に悩むことが多くなるのでは？性の多様性の自由を認めるのはどこまでか。女とか男とかではなく一人の人間として広い心で接するには難しい。

・性的少数者、LGBTQへの人権差別・迫害はあってはならない。ただし、本来人間はLGBTQではなく、肉体通りの男/女として生きよう設計されているので、LGBTQの人々がその考えで生きることへの認可とは別の話である。

・個人の異常な趣向を病気にして正当化する風潮に対し、危惧する。

・生活する上での権利は必要と思う。しかし生物的に宗教的には自然ではないことは避けられないと思う。したがって精神的なサポートが必要性は優先すると思う。

・マスコミ等が騒ぎ過ぎ。成り行きに任せるべき。

・メディア各社が取り上げていて認知度がUPし、結婚等したりしているが、その後はどうなったのかの報告があまりありません。実際にはどのように変化しているのか調べて知らせる努力が不足していて考える材料がありません。実際の変化報道が欲しい。そうすることで関心を持つことができる。

・理解に努めますが、あまり取り上げすぎると何か違和感を持ちます。

・人それぞれの考えなので、尊重はするが推進まではいかない。

・認めるべきではあるが、性的少数者の権利が優遇されることがあってはならない。あくまで同等であるべき。

・とにかく関わりたくない。

・急ぎ過ぎないことが重要。認めたくない人たちの権利もある。

・あまり身近なことと捉えていません。

・やはりいろいろ考えたが普通じゃないと思います。関わりたくないです。

・他人事のような気がして、あまり深く考えたくない。

・身近に感じない。実際に会ったことがないから。

・よく分からない、難しい問題である。近くにいたら気持ち悪いと思うが、そういう人を直すことはできないのか。

・趣味趣向ではなく、本当に病気が困る。表に出てこないところに問題が隠れている。

・そういう人たちに対する、子どもの頃からの養育の場所はないのだろうか。

◎ 調查票

性的少数者（セクシャルマイノリティ）に関する意識調査

性的少数者とは、同性愛者、両性愛者や心と身体の性の認識が異なる等、性的指向と性自認のあり方がストレート（恋愛対象者が異性、心と体の性が一致しており）でないとする人々（LGBT等）を言います。

性的少数者の方は、無理解からくる偏見や差別で、大きな苦しみや悩みを抱いており、人権が損なわれ、その対応が急務となっています。

そこで、今回、「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」と併せて、本件についてお考えをお聞きます。何卒ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

※ LGBTとは

- L（レズビアン）：身体と心の性別は女性で、性的指向も女性である人
- G（ゲイ）：身体と心の性別は男性で、性的指向も男性である人
- B（バイセクシュアル）：身体と心の性別を問わず、性的指向が両性である人
- T（トランスジェンダー）：身体の性別と心の性別が一致しない人

問1 あなたは「性的少数者」または「LGBT」という言葉（どちらか一方でも）を知っているか、または聞いたことがありますか。

- 1 知っている
- 2 言葉は聞いたことがあるが内容は知らなかった
- 3 知らなかった

問1

問2 あなたの周りに、性的少数者の方はいますか。

- 1 いる
- 2 いない
- 3 わからない

問2

問3 問2で1と答えた方にお聞きします。それは、どなたですか。

- 1 あなた自身
- 2 家族
- 3 友人
- 4 あまり親しくない友人や知り合い

問3

裏面もごさいます

